

令和 5 年 10 月 6 日

(公社)埼玉県介護老人保健施設協会
 会長 荒船丈一 様

施設名 施設名 施設名
 氏 名 永井千恵

研 修 会 報 告 書

研修会名	相談関係職員研修会		
日 時	令和5年9月6日(水)		
会 場	ZOOMを利用したオンライン研修会		
発 表 者	はなぶさ・水越渉、高齢者ケアセンターのぞみ・宮崎雄太、あすかHOUSE松伏・永井千恵		
参加人数・定員	参加人数	27 名	募集定員 30 名
研修リーダー 研修メンバー (施設名)	研修リーダー: あげお愛友の里・宮河、サブリーダー: 岩槻ライトケア・磯村 なでしこ・浅賀、はなぶさ・水越、アルメリア・春原 高齢者ケアセンターのぞみ・宮崎、あすかHOUSE松伏永井 (欠席)高齢者ケアセンターゆらぎ・中台、逍遙の郷・新井		
研修会のテーマ	『老健の相談職は何をする人か?～コロナ禍を経験しての相談職としての学び～』		
研修会の評価	アンケート回答数 (WEBアンケート実施)	17 名	3. グループワーク (ブレイクアウトセッション) 4.2
	1. 研修内容と目的の一致	4.2 / 5	4. 研修会の進め方 4.3 / 5
	2. 発表に対する評価	① 4 / 5	～総合評価点～ 4.3 / 5
総 評	(研修会開催後の反省会での内容や研修リーダー・メンバーとしての感想等を記述)		
	昨年度の情報交換会に続き、感染症が流行しても開催できるよう当初からオンラインでの研修会開催を企画しました。また、申込の段階からWEBでの受付を行い、終了後アンケートもWEBで行った。相談職は職場内でも人数が少ないところが多く、情報交換や相談など関係づくりの場としてこの研修会が役割を果たしてきたところもあると思うので、参加者の皆さんの協力のもとで無事に終えることが出来良かったと思います。		
	研修内容については昨年度の情報交換同様にコロナ禍の対応に関する話題に偏りすぎてしまった様に感じますが、まだまだ対応に追われている皆さんの現状が伺えました。ブレイクアウトセッションで各施設の対応の工夫などもうかがうことが出来、また、利用者のニーズをふまえた自宅復帰支援を行い、ベッド稼働率・在宅復帰率などの向上にも各職種と協力して奔走されている姿を感じることが出来たと思います。神経をすり減らしている方も多一方で、利用者や家族からの温かい言葉に救われながら皆さん奮闘されていました。		
	研修会の運営面では、司会や発表者の音声や画像が時々途切れてしまう場面があり、また、ZOOM操作に慣れていない方などは突然退出になってしまう事がありました。ZOOMのホスト操作をになってもらった研修メンバーにはかなり負担があり、日頃操作には慣れていても30人で手いっぱいな状況でした。他の研修メンバーも共同ホストになりますが入室許可程度しかできず、グループ分けなどには関わられなかった為、事前準備から当日の運営まで一人で負担を背負わせてしまったことは大いに反省するところです。今後のオンライン研修会の運営の仕方についてはまだまだ課題が多いと思いますが、コロナ禍を経験して新しいツールを使うことを学ぶ事が出来たので今後も必要に応じて活用できるようにしていけたらと思います。		
	次年度以降は実際に会場で開催し、以前のような横のつながりを築いていけるような研修会の開催も模索していきたいと思っています。開催にあたり、ご協力いただきました皆さまに改めて感謝申し上げます、ありがとうございました。		

* アンケート結果の詳細については、別紙添付資料「研修会アンケートのまとめ」を参照。